

# 石川県 (産)大京株式会社

エネルギーを活用した協働住宅「パッシブハウス」に、長崎に滞在する外国人技能実習生の「サービスアパートメント」を移設した。

11年8月に入居が始まった「サービスアパートメント」は全10戸。家具、家電付で、風呂、洗濯やベッドルームなどホテル並みのサービスも提供される。

「サービスアパートメント」はパッシブハウス「パッシブハウス」で、県内事業所内のYKK・R&Dセンターの食堂は日本イースタム文化センターのホールも併設された。外国から招いたシェフが調理を行い、イスラム教の戒律に準じた豚肉やアルコールを含まないハラル料理やベジタリアン向けの食事を提供する。

YKKは海外拠点で働く実習生を対象に、技術向上のための短期研修を実施してきたが、長期研修で実習生に実習プロジェクトに参画させながらの研修も始めた。30人前後の外国人実習生が10月1日から3年間のスパンで滞在するため、食、住の面で外国人技能実習生が中心だ。

現在、同社にはベトナム人が1人住居しており、寮に入れないベトナム人は既存の賃貸物件を利用する。

だが、同社の担当者は「ベトナムに開拓する作業員の数が増えたり、物件が高値の状況だ」と、同社担当者は指摘。自社で寮の整備が必要と判断

法が施行され、実習期間が延長3年分かつ3年に延長された。

一方で製造業の関係者からは「実習生が長期で滞り出してしまえば」といふ声も聞かれる。住居確保だけでなく、継続して働ける労働環境の整備も重要となりそうだ。

寮の整備には初年分の共有の設備室を設置して入居者同士がコミュニケーションできる、イスやテーブルなどを設けて、カンパや飲料の自動販売機を置くという。今後、実習生が長期滞在と共生できる工夫も欠かせない。

(左ページ)伊藤新時

## 新幹線延伸工事も影響

2018年(平成30年)10月25日(木曜日)

### 北陸製造業、整備広がる

# 実習生の寮住みやすく

北陸の製造業で外国人技能実習生に住みやすい寮を整備する動きが広がっている。コマン向け建設機械部品を手掛ける大京(石川県小松市)は、新設する寮にイスラム教向けの礼拝スペースを設ける。YKKはホテル並みのサービスを提供するほか、宗教に配慮した料理を提供する。人手不足や海外拠点で働く外国人実習生の増加が、上などを迫って、実習生の受け入れが増えていることに対応する。

大京はより一層年末をピークにした忙しさを迎える。外国人技能実習生50人を日本人の定期雇用者10人を収容できる寮を新設する。寮は本社に隣接する新工場の建設予定地内で、敷地面積は2000平方メートル。将来的には1000人を収容できるように拡張する。

実習生として受け入れる計画のインドネシア人、ネシアや中国、タイなどの実習生を40人を採用している。建機の需要拡大を受けて今後、年間20人のペースで採用する計画だ。一方、現在の寮は手狭になっているほか、本社から距離がある。外国人実習生を増やすには「新たな寮の整備が喫緊の課題となる」と(同社)と判断した。

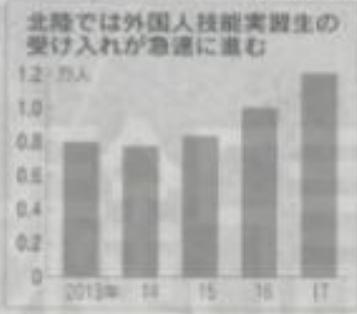
YKKは「技術の継承」として、山崎市で建設が進む白山

大京が小松市内に持つ寮は半棟になってきた(小松市)

大京はより一層年末をピークにした忙しさを迎える。外国人技能実習生50人を日本人の定期雇用者10人を収容できる寮を新設する。寮は本社に隣接する新工場の建設予定地内で、敷地面積は2000平方メートル。将来的には1000人を収容できるように拡張する。

実習生として受け入れる計画のインドネシア人、ネシアや中国、タイなどの実習生を40人を採用している。建機の需要拡大を受けて今後、年間20人のペースで採用する計画だ。一方、現在の寮は手狭になっているほか、本社から距離がある。外国人実習生を増やすには「新たな寮の整備が喫緊の課題となる」と(同社)と判断した。

YKKは「技術の継承」として、山崎市で建設が進む白山



**大京** ムスリム向け礼拝所  
**YKK** ホテル並みサービス



大京が小松市内に持つ寮は半棟になってきた(小松市)

石川県（官）市の国際交流協会が、多文化共生の一環として、技能実習生の暮らしをサポート。



## 外国人技能実習生の増加と求められる多文化共生意識



◀国際交流サロンの日曜日の教室は、技能実習生の皆さんでいっぱいになります。写真は、テーマをもとに日本人サポーターと学習者たちが、自由に会話をすることで、自主的な発話を促す“わいわいカフェ”。この日は「ちょっと日本食試食会」と題して、梅干しや納豆、赤飯、らっきょうなど、日本に住んでいても買ったことがない、でも食べてみたい食べ物に挑戦し、感想を話し合いました。

在留資格「技能実習」における白山市在留外国人国籍別構成比（平成28年末）



## H.I.A. TOPICS 初めての国際交流運動会

10月2日、協会主催で若宮体育館にて国際交流運動会を行いました。これは共生交流事業部会が今年初めて企画し、外国人と協会員合わせて80名以上が参加しました。赤組と白組2チームに分かれて、借り物競争、障害物パン食い競争、スプーンリレー、デカパンリレー、玉入れを行い、競技も応援も大変盛り上がりました。運動会を初めて経験する参加者もあり、みんなで一緒に汗を流し、とても良い交流となりました。



◀みんな揃って準備体操。ケガ予防に欠かせません。

▶パン食い競争に大苦戦！焦らずおちついて



▲玉入れうまくできるかな？



▲記念撮影。お疲れさまでした。

## 技能実習生の帰国後の就活を応援する団体「エーパック・エイチアール」(白山市) ホーチミンからテレビ電話で講演

日本に在留する技能実習生の帰国後の就職を支援する白山市の市民団体「エーパック・エイチアール」が昨年の12月18日、国際交流サロンで「帰国後の就職を考えるセミナー」を開催しました。当サロンで日本語を学習するベトナム人技能実習生7人が参加したセミナーでは、ベトナム・ホーチミンの人材紹介会社に勤める吉川真人さんが、インターネット回線を通じ、都市部の求人状況や日系企業の求める人材等について説明しました。まもなく帰国を予定している実習生たちは、熱心に吉川さんに質問し、履歴書の書き方や、面接時のアドバイスを受け、現地での日系企業への就職に目を輝かせていました。



▲国際交流サロンで行われた就活セミナー代表の高橋斉さん(写真左)は、「せっかく培った実習生の技術や高い日本語能力を、帰国後、現地の石川の産業に生かし、それぞれの母国から石川を発信してくれる人材になってもらいたい」と語っていました。